

## 会 議 録

会 議 名	平成30年度第2回青少年問題協議会専門委員会		
事 務 局 (担 当 課)	児童青少年課		
開 催 日 時	平成30年10月19日(金) 午前10時～11時30分		
開 催 場 所	小金井市市役所 西庁舎 第5会議室		
出 席 者	委 員	佐野委員、黒須委員、高橋委員、木下委員、大澤委員、櫻井委員、古源委員、小山委員	
	そ の 他	欠席：羽田委員、倉持委員、田原委員	
	事 務 局	鈴木児童青少年課長、田中児童青少年係長	
傍聴の可否	可	傍 聴 者 数	1名
傍聴の不可・一部不可の場合はその理由			
会 議 次 第	1 開 会 2 議 題 (1) 専門委員会による青少年問題協議会アンケート結果について (2) アンケート結果を受けた啓発用リーフレットについて 3 閉 会		
会議結果	「子どもの居場所」に関するアンケートの実施結果についての分析と「リーフレット」に何を載せるか、について議論を行った。結果、今回の会議の各委員の意見、審議内容を元に、12月までにリーフレットのたたき台案を事務局で作成し、各委員へ送付するので、各委員でその内容について各自検討いただき、次回1月の専門委員会でリーフレット原案を協議し、3月末の本体会議で専門委員長から全体に報告を行うこととした。		
提 出 資 料	平成30年度第2回小金井市青少年問題協議会専門委員会 次第		
事前送付資料	小金井市青少年問題協議会アンケート集計結果		
鈴木児童青少年課長	本日は、お忙しい中、平成30年度第2回小金井市青少年問題協議会専門委員会にご出席いただきましてありがとうございます。日ごろより、委員の皆様をはじめ、地域の皆様におかれましては、児童福祉に関しまして、ご理解、ご協力いただいておりますことを、この場をおかりしまして御礼申し上げます。本日の議題は、アンケート結果と、このアンケート結果を受けた啓発用リーフレットについての2点について、でございます。活発なご協議をいただきますことをお願いしたいと思います。 では、事務局のほうから資料についてお願いしたいと思います。		
田中児童青少年係長	おはようございます。児童青少年係、田中です。 本日の机上配付の資料は次第1部のみとなっております。また、事前送付資料といたしまして、7月に実施いたしましたアンケートの集計結果を8月に郵送させていただきます。お目通しと本日の会議へのご持参を		

	<p>お願いしてございます。ご不足等ございましたら、事務局までお申しつけください。また、既に一度お配りしたのですが、リーフレットの構成の参考に、前3回分の青少年問題協議会発行リーフレットもお配りしております。以上でございます。</p>
高橋委員長	<p>おはようございます。小金井第一小学校校長の高橋です。</p> <p>今日は皆さん、お忙しい中、集まっていただきましてありがとうございました。</p> <p>ただいま事務局のほうから話がありましたが、本日の議題、まず1点目が専門委員会による青少年問題協議会アンケート結果について、2つ目がアンケート結果を受けた啓発用リーフレットについて、ということで協議をさせていただく予定になっております。どうぞよろしくお願ひします。では、着座にて進めさせていただきます。</p> <p>それでは、まず事前のアンケート結果についてなんです、皆さんには事前に送付されて、お目通しをいただいているのではないかなと思います。</p> <p>早速ですが、こちらの結果をごらんになっていただいでのご感想や、それから啓発すべき方向性、重視すべき数字など、アンケート結果について、皆さんからご意見を頂戴できればと思っております。</p> <p>ご意見のある方からというのも、なかなか難しいかもしれませんが、順番にご意見をいただければと思っておりますので、では、木下委員のほうからお願ひできますでしょうか。</p>
木下委員	<p>おはようございます。第一中学校の木下でございます。よろしくお願ひします。</p> <p>アンケートの結果、事務局、ありがとうございました。見させていただきました。ぱっと見て、大きな、ちょっと気になるなというところは、それほど見受けられなかったのですけれども、幾つか、見た中で感想をお話しできればと思います。</p> <p>まず、問7番のところ、地震、災害があったときに、家族と話をしていますかというところで、「している」というのが51%、「していない」というのが46%と。保護者も似たようなものですけれども、災害があったときにどうしようかという話をあまりしていないな、という、もっともっとしてもいいかなというところがうかがえました。</p> <p>中学校でも、事あるごとに、災害のときに、こういうことを家で話し合ってくださいね、という話はしているんですけれども、なかなか家庭内でそういう話が浸透していないのかな、というところも感じられました。</p> <p>それから、問8、悩みの相談ですけれども、こちら、悩みの相談をしている子が多いんですけれども、していない子もいる。悩みをそのままにしているような子どもたちも41%、相当いるというところで、ただ、それを誰に相談するのかというところだと、次の問9ですけれども、家族に</p>

	<p>相談というのが一番多くなっています。保護者のほうも家族で相談というのが多くなっていますけれども、やはり先生にというのが、これは多分昨年度もそうでしょうけれども、少ないというのが気になったところです。</p> <p>問10番のところは、これは朝食についてですけれども、「1人で食べる」というのが非常に多い。118人、30%弱が1人で食べているということが気になったところですけれども、保護者に至っては61人になっていますので、ちょっと差があるのかなと感じは受けています。</p> <p>それから、問11番、夕食を家族と食べるかどうかという問いだと思いますけれども、保護者のほうは食べていないという認識はないですけれども、児童生徒のほうは8人、食べていないというのがある。これはどういう結果なのかな、というところが気になりました。</p> <p>最後に、問17、これは携帯とかスマホの利用のルールということで、これはよく本人と保護者で分かれるところですね。保護者はルールをつくっているよと言っている、本人はそんなことないよというところで分かれるところ。それほど大差ないな、というところで、本人も保護者もルールがあると考えていると感じました。</p> <p>アンケート結果からは以上です。</p>
高橋委員長	では、古源委員、よろしいですか。
古源委員	<p>まず、アンケートの回答率が非常に高いというのがすばらしいと思いました。児童生徒のほうは、学校での指導で100%ということはわかるんですけれども、保護者の方も、非常に关心高くお答えいただいているのかなと思いました。</p> <p>それから、最初のグラフになっているページの設問の1から4に関して、子どもの放課後の過ごし方に関してなんですけれども、ほぼ、子どもと保護者との回答が一致している、あまり差がないので、保護者の方が子どもの放課後に関して、放課後に在宅している、していないにかかわらず把握をしてくださっているのかなと感じました。</p> <p>それから、設問5ですけれども、「あなたは放課後の生活が楽しいですか？」に対して、ほぼ、90%以上のお子さんが楽しいと答えているので、保護者の認識よりも、ちょっと割合が高いのかなと思ひまして、子どもが楽しいと感じているのはいいことだなと思いました。</p> <p>それから、設問8、先ほどの先生のほうのお話でもありましたけれども、悩みを相談しているか、していないかに関して、ここが意外に保護者と子どもの意見の差があるところで、保護者のほうは85%が相談していると思っているところが子どもは57%、やっぱり、ここが親子の間で認識が違うところだなと感じました。</p> <p>それと設問の10番、「お子さんは朝食を誰と食べていますか?」、「あなたは朝食を誰と食べていますか?」ですけれども、小さな数字ですけれど</p>

	<p>も、「友だち・知り合い」と食べているという3番に印をつけているお子さんがいるので、これは次回以降の参考ということでお話しするのですが、平日の朝に限定していれば友達や知り合いと食べる、がなかったのではないかな、と感じましたので、提案させていただきます。</p> <p>それから、スマホ等のところで、トラブルはないようですが、健康面は特に影響を感じていないという子どもが56%で、実際、睡眠不足や健康障がいを受けていないと感じている比率が非常に多かったので、問題意識として保護者とそろってないのかなと感じました。</p>
高橋委員長	<p>今のは、設問の何番になりますか。</p>
古源委員	<p>設問の15、16ですかね。15が健康面に対する影響で、16がトラブル。</p> <p>最後の設問の20と21に関して自由記述ですけれども、自由記述の設問で、「児童館や図書館、公民館であなたがやりたいこと」、それから、「放課後にやりたいこと、行きたい場所」ということで、20に関しては、いわゆる公設のところでどんなことが、という設問だったと思うのですが、見た感じでは、やっぱり図書館イコール本という回答がすごく多くて、公民館での発想、どういうふうにご利用するか、というのがなかなかストレートに出てきていなくて、本に偏ったと言ったらおかしいけれども、図書館で勉強する、本を読む、本を読んでほしいというような回答が多いのかなと感じました。</p> <p>そして、最後の21番、「あなたが放課後にやりたいこと、行きたい場所」というところは、ほんとうに多岐にわたっておりますので、これをどういった形で、今後支援していくのかなというあたりを考えたいと思いました。</p> <p>また、他市の施設の名前が出てきて、武蔵野プレイスとあそべえというのが出てきましたので、わかれば事務局のほうからでもご説明いただけたらいいかなと思います。以上です。</p>
高橋委員長	<p>他市の施設の部分について、事務局のほうから、わかる範囲で。今、いただきますか。</p>
古源委員	<p>どちらでも。</p>
田中児童青少年係長	<p>施設のご説明ということでよろしいのでしょうか。</p>
古源委員	<p>そうですね。小金井でいうと、どういったものかというところを。</p>
田中児童青少年係長	<p>武蔵野プレイスにつきましてはご存じの方も多いと思うのですが、武蔵境駅前南口にございます複合施設です。図書館、集会施設機能、カフェ、そういったものもありますし……ギャラリー機能とかもございますので、中・高校生や市民の活動などでも使える複合施設、という認識でよろしいかと思います。市内東側エリアからはわりと近い場所ですから、小金井市民の方でも、相互利用で使われている方も多いかと思います。</p>

	<p>それと、あそべえですが、こちら武蔵野市の放課後子ども教室の一種です。こちら細かい資料は本日、手持ちがございませんので、申しわけございません。この場では差し控えさせていただきたいと思います。</p>
高橋委員長	<p>よろしいですか。</p>
古源委員	<p>はい。</p>
高橋委員長	<p>では、続きまして、櫻井委員、お願いいたします。</p>
櫻井委員	<p>櫻井です。ほとんど、皆さんおっしゃってくださったのですが、とにかく皆さん、よく回答していただいたなと思いました。</p> <p>それで、設問19番ですが、あなたは、近所にどんな場所があったらよいですかということは、児童館とか公園とか、公民館、図書館、みんな、欲しいんですね。皆さん大体同じようなものがあっていい、というところなんだろうと思いました。</p> <p>それと、設問16で、先ほどもお話がありましたが、「携帯・スマホを利用する中で以下のようなトラブルがありましたか?」というので、「とくにない」という保護者が307名、93%という数字になっている、気になる部分だと思います。あとは、皆さん、お話しをされていまして、以上で、すいません。</p>
高橋委員長	<p>ありがとうございます。</p> <p>では、続きまして、大澤委員、お願いします。</p>
大澤委員	<p>私も、既に出ているので、何を言っているのかという感じですがけれども、皆さんが行きたい場所というか、こういうのがあっていい、という自由記述で、武蔵野プレイスが出てきていて。私の知り合いの人とかに聞いても、あそこの施設はいいよという人が多くて、一度見に行きたいと思っただけなんですけれども、そういう市内に1つ市民が集えるスペースがあるといいのかなというのと、図書館について、皆さん、本を読みたいと書いてあるんですけども、一方で今は、本を読んでいる人が少ないと言われていた時代なので、もっと本を読む機会が増えるといいかなと思いました。以上です。</p>
高橋委員長	<p>武蔵野プレイスについて他の方もご発言、ありますか。</p>
黒須委員	<p>武蔵野プレイスは、よく会合もあるところで、すごいスペースが広いんですよ。</p>
高橋委員長	<p>スペース。広さの問題ですか。</p>
黒須委員	<p>あと、個人で勉強したいときは個人で勉強するスペースがあって、みんな相談しながらみたいになったら、そういうスペースがある。高校生までの子どもたちのためのスペースもちゃんと確保されて、親として理想ですね。</p>
高橋委員長	<p>さまざまな子どもの居場所というところで、さまざまなニーズに応えられるような、対応できる施設。</p>

小山委員	<p>本も自由に読むことができるし、カフェや集会施設もありますし、いろいろな、本当に複合的で、お子さんから大人まで、自由に出入りして、すごい利用度が高い。だから、お子さんたちも、そこに大人たちもいることによって、ある程度安心感ですし、気軽に使えます。そういう安全な場所だということでは、非常にいい場所だと感じます。</p>
高橋委員長	<p>ありがとうございます。では、引き続き黒須委員。お願いします。</p>
黒須委員	<p>そうですね。まず、今の武蔵野プレイスの件、とにかく自習をするのにいいみたいです。貫井北町の公民館とか、一応、自習スペースはあるけれども、結構早く行かないとすぐに埋まってしまう。武蔵野プレイスの場合は駅前だから、高校生の子とかが学校帰りに、そのまま電車をおりて、そこで勉強してから家に帰ってくるみたいな利用ができますね。自分の子が受験生だったときに、小金井にはそういう場所がないと言っていました。</p> <p>それと、15番の設問で、「あなたが携帯・スマホ等を利用する中で以下の影響がありましたか？」というところで、「とくに影響はない」というのが、多いんですけども、一方で、高校生のスマホ利用の問題でスマホを1日やらない日を学校で決めた、という話を以前、聞いたことがあります。SNSとか既読が相手にもわかっちゃうから、無視されたとか、そういうことがまた問題になる、LINEをやっている時間が長いから、そういうことをしなくていい日があるとほっとする日があった、という話を聞いていたので、市内の小学生、中学生では、まだそこまではいっていないのかな、と思うんですけども、そういうスマホに自分の時間をどんどん占領されてしまったみたいなことが高校生ではあるようなら、小学校、中学校のうちから、その辺を大人たちが見ていかなきゃいけないことなんじゃないかなと、今回、そういうことを思い出しました。以上です。</p>
高橋委員長	<p>ありがとうございます。では、佐野委員、お願いします。</p>
佐野委員	<p>今、いろいろお話を聞いていて、皆さん、よい子の話が多いですね。勉強するために図書館に行く。要するに、それ以外に才能のある子に対して、どういうフォローアップをしていくかというのが、私、非常に大切なんじゃないかなと思うんですね。</p> <p>図書館に行って勉強する子というのは、ある程度、家庭の中でも勉強しているんじゃないかなと思うんですけども、勉強以外の才能を持っている子どもに対して、どういう形でフォローアップをしていくか、そういうことをやはり考えていく必要があるんじゃないかなと私は感じる。</p> <p>不登校の子どもが多くなっているというのも現実ですから、ですから、そういう子どもに対して、どういうフォローアップして、どういう形、児童館でも図書館でもそうですけれども、何かそういうものが必要になってくるんじゃないかなと思いました。</p> <p>設問9のところで相談をしている相手について、③学校の先生に相談す</p>

	<p>る、が28人、8%になっているんですけれども、学校の先生に相談する子どもたち、児童生徒が少ない。これはやっぱり考えていかなきゃいけないんじゃないかと。1日の中で、児童生徒が接する時間というのは、先生が非常に多いわけですね。下手すれば、親よりも多いかもしれない。そういう中で、先生に相談をしないで、友達とか、そういう形で相談をしているというのが、僕はちょっと考えていかなきゃいけないんじゃないかなと。今日は校長先生がお二人見えていますので。日本以外では、先生に相談する比率が非常に高い。だから、やっぱりどうして先生に相談しないのかなと、そういう子どもの心を知りたいなというか、倉持先生がいらっしゃっていたら教えていただきたかったです、これはこれで、ゆゆしき問題じゃないかなと私は感じました。</p> <p>それから、長くなって申しわけないんですけれども、問11の夕食を誰と食べるか、で、④の「食べない」、先ほどもちょっと出ましたけれども、この回答が8人あるというのが、私、気になりました。</p> <p>それと問18のスマホのメリットへの認識で、保護者は①のいつでも連絡が取れる、の数値が非常に高いんですけれども、子どもとの通信手段として考えていらっしゃるんだなと思いました。</p> <p>19番の子どもが行きたい場所、どんなところがあったら行ってみたいか、について、②の公民館とか図書館が高いですが、これは設問3のどこで過ごしますか、で①の自宅が多いのと、ちょっと反する数値が出ていますね。保護者のほうも19番、②の公民館とか図書館が欲しい、そういうものが必要じゃないかということなので、小金井においては、そういう施設がまだ充実していない、だから子どもたちはこういうものが欲しいんだという意思をあらわしてくれているのでは、と思いますし、それに対応するような形をとってもらいたいなと思いました。</p>
高橋委員長	ありがとうございます。小山委員、よろしいですか。
小山委員	問15、スマホのいろいろな影響、気になるところでありまして、睡眠不足とか、あるいは視力低下とか、スマホの利用の1つ結果が生じているのか、気になるところではありましたけれども、ただ、スマホ、子ども、保護者ともに多くが問題ないと答えておりますので、それなら、ちょっと安心な気がします。
高橋委員長	<p>ありがとうございます。最後に私からですが、まず、設問の1のところ、これは発達段階別の表のところ、思ったことなんです、設問1の小4から中3までのところの表で、①のところ、「あなたは放課後、どう過ごしていますか？」というところで、①が放課後子ども教室ということで、放課後子ども教室の利用は、小学校までが少ないですよね。この辺は驚いたなというか、そういうのを感じました。</p> <p>それから、設問2のほうでいうと、今度は、先ほどから出ていましたが、</p>

「放課後、誰と過ごすことが多いですか？」ということで、1人で過ごす、④なんです、これが14%いる。1人で過ごしている子どもがこれだけいる、つまり、安全という観点で見たときにどうなっているのかなという視点があると思います。

それから、設問3「放課後、どこで過ごすことが多いですか？」というところで、先ほどの発達段階、学年別の表で見ると、自宅で過ごす子どもということで、中1、中2でかなり増えるんですね。中3でまた減ってきますが、自宅で過ごす中学生が多いのかなという、データだけでいうと、そんなことを感じました。

それから、今度、設問の6のところですね。これは家族との会話なんです、会話の時間もちょっと驚いたのが、割合でいうと、10分～29分、もしくは10分も話さない、少ない時間の子どもたちが約19%、2割弱いる、ということなんですね。放課後の過ごし方、子どもの居場所を考えたときに、なぜ、家族と話せないのかなということをやっと考えてしまいました。

それから、先ほども出ていた設問8ですね。「悩みがあるとき、誰かに相談していますか？」ということで、していない子が4割いるので、これはちょっと問題ですね。先ほどからも出ていた設問9のところで、では誰に相談をするかというところで、先生の割合は少ないですが、家族、友達に相談する割合が非常に高い。特に家族に相談するのが半分ですね。そうすると、放課後、家族と過ごす時間が少ない子どもに対して、放課後、家族と過ごす時間があって相談ができる、家族と過ごす時間が少なくて相談ができない子もいるのか、いろいろ考えてしまいました。

それから設問10、朝食を食べているということで、ここは皆さんと同じですね。食べないという子が17人、保護者の回答でも8人、これは驚きました。

それから、今度は設問の14ですね。インターネットのところですが、ここの使用時間のところで、②から④、30分～59分、それから3時間以上というところを合計すると、65%近くになるんですね。幅はあるんですが、単純に1時間～3時間以上使っている子どもたちがこれだけいる、ということになってくるのかなと。

先ほどの設問15のスマホの影響力のところで見ると、「とくに影響はない」と答えている子どもが56%いるのですが、逆に影響がある、というふうに回答した子どもが44%もいる。これはゆゆしき問題なのかなと。保護者のほうも同じような数字が出てきて、これは何か考えていかなくちゃいけないのかな、と思いました。

設問17でスマホの使用のルールについて、「ない」もしくは「覚えていない」が、保護者26%、子どもが46%で回答に違いがあるということ



	<p>と、特にこどもは半数近くルールがないか忘れた、これは子どもたちの携帯の使い方、情報モラルも含めてなんですが、見直していかなきゃいけないのかなと思います。</p> <p>こういうものを使うのは放課後ですから、そうすると、放課後の過ごし方というのは非常に重要になってくると思いました。</p> <p>それから、設問19のところかというと、先ほどもありましたように、児童館、公民館のニーズが高いのだなというのを感じます。私からは以上です。</p> <p>では、皆さん一通り、アンケート結果についてご意見をいただいたところです。では、このアンケート結果を踏まえて、先ほども言いましたが、この中で重視すべき数字というのがあるので、それは先ほど言った啓発すべき方向性というところにつながっていくと思うのですが、私たちは子どもの居場所ということについて専門委員会を持って、今回このようなアンケートをつくらせていただきました。その観点から、何を重視していったらいいんだろう、数字として、ですね。それから、今後の啓発の方向性についてどうしていったらいいんだろうか、というところについて、ご意見をいただければと思います。</p> <p>議題のほうでいうと、(2)のほうに移るわけです。それで、今日、事務局のほうから参考までに、今まで発行されたリーフレットが配られました。リーフレットの今までのものを見てみると、アンケートの結果が全部で14個ぐらい載っていますね。だから、今回、私たちのアンケートの設問を19問と自由意見を聞いたのですが、スペースの関係上、全部載せるのは難しくなってくるのかなという気もしています。</p> <p>その中で、この委員会として、このアンケート結果の中で重視すべきもの、何を保護者や子どもたちに伝えていかなきゃいけないのかということをご皆さんで考えていかなければいけないと思っています。ご意見ありましたら、お願いできればと思います。</p>
佐野委員	<p>佐野ですけど、発言の内容が合っているかどうかわかりませんが、このアンケートをもとに、6地区連合会の会合に持ち帰って、多くの人といろいろな意見の交換をすることも大切なんじゃないかなというふうに私は思います。アンケートをやって、こういう結果になった、というだけではなくて、この数字を通しながらいろいろ話し合う、そういう機会を持ったほうが、よりアンケートをとった意味があるのかなと思いますので、資料を提供いただけるのであれば、やってみたいなというふうに思います。</p>
高橋委員長	<p>それは、持ち帰って、というお考えですか。確かにそういう方法もあるかなとは思いますが。ただ、今日の会議では、まず専門委員の中である程度絞るといって重点化して、重点化したものを受けて事務局のほうでリーフレットの案をつくっていただく方がよいと思います。重点化したものにつ</p>

いて各所属のほうへ持ち帰っていただいて、話をさせていただくという形にしたほうが効率的じゃないかなという感じがしました。まずは、重視すべき数字とか、あと啓発すべき方向性がないと。では、少し考える時間をとりましょう。10分ほど考える時間をとりたいと思います。

(中断)

では、最初に私から、話をさせていただきます。私はこれを参考にしてみて、以前の家庭の教育力に関するリーフレットが比較的、今回話が出てきた子どもの居場所についてのリーフレットのまとめ方に近い部分イメージなのかな、と思いました。アンケートをとる段階で、項目が5項目ありましたよね。放課後の様子とか生活習慣とか。例えば、これに置きかえて考えたとき、例えば放課後の様子ということで水色スペース、それから緑のスペースで例えば生活習慣とか色分けをして、アンケート結果を載せていく。家庭の教育力の時には、裏面にインターネットのことが出ているんですが、今回も携帯、SNSのことがまたありますので、それを同じように載せて、ざっくりなんですけど、考えたんですね。

そうすると、やはり設問19問、全部は入らないだろうなと思ったんです。載せられないものも出てくるけれど、せっかくアンケートをとったのですから、載せられない部分につきましては、文言のところで触れていけばいいのかなというふうに思いました。

そうすると、この設問の中でどれを残して、どれを重点としていくかというところを見て、なかなか今、この短い時間で絞り切れなかったんですが、例えば、設問7の地震のところ、これはデータというより文言で、放課後の子どもの居場所づくりの中でご家族で話し合おうという形で残すことができないかなとか、あと、設問の12番、日中3時間以上自由に過ごせる日はありますか、ここはなかなか難しかったのが、子どもたちがどういうふうに捉えて答えたのかなというのが私も難しいかなと思ったので、こういう設問はなくしてもいいのかなと思ったりしています。まだ2つしかないですけど、そんなふうに考えてみました。

啓発する方向性としては、子どもの居場所ということで、先ほど武蔵野プレイスの話もありましたけど、子どもたちは自由意見の中で公民館とか児童館へのニーズが高い、それから放課後、遊んだり、勉強したり、友達と話をしたりするようなスペースを求めているということは、居場所の空間、場所があるといいんじゃないか。私たちはあくまでも啓発しかできませんので、そういうものが求められているんじゃないか、ざっくりなんですけど、以上です。それでは、木下委員、いかがですか。

木下委員	<p>25年が自尊感情で、27年がネットで、29年が地域とボランティアというようなところで大きく取り上げられていると思うんですけども、今回は子どもたちの居場所ということなので、多分、先ほどあったように、項目分けをしているので、放課後の現状を分析しながら、そこにスポットを当てていますが、回答に何となく矛盾があったり、問1、問2、問3を見ると、学習塾、習い事が多くて、友達といる、でも、自宅にいるが一番多くて、これを、どう捉えればいいのかというふうにちょっと悩んだんですけども、その辺を分析をしながら、あとは放課後の子どもたちの家での会話であるとか、悩み相談であるとか、食事であるとか、あるいはスマホの使い方であるとか、そういうようなところを織り込みながら分析をしていって、最後に、小金井という地域として子どもたちの居場所をどう創造していくか。今ある現状、あるいは新しいもの、こういうものがあつたらいいんじゃないかな、という意見が出ていると。そういうものを地域みんなで考えていきましょうというふうな形になるといいのかな、と感じました。すいません、まとまらなくて。</p>
高橋委員長	<p>ありがとうございます。小山委員、お願いします。</p>
小山委員	<p>放課後の様子は現状こうだということは出てくると思うんですけども、設問19のその他や設問20、設問21、お子さんの意見ではいろいろなものがありますね。いろんな体験をしてみたい、体験の要素があるような場所が欲しい、現状とそういう希望の中での比較で何を考えていったらいいのか。</p> <p>それから、先ほどありました家族、親子の会話が少ないとか、あるいはネット依存ではありませんけど、非常にネットの使用が高いので、家庭の中での問題として、どう考えていったらいいのかということも考える必要があるのかな、と思います。</p>
高橋委員長	<p>古源委員、お願いします。</p>
古源委員	<p>難しいと思いながら見ていましたが、先ほど木下委員がおっしゃったように、この集計を見てみると、子どもにとって本当に居場所があるのかということが浮かび上がってきた、というふうに今は感じています。</p> <p>設問3で、どこで過ごすことが多いですかという質問に対して、設問の1の3で遊びに行くという子が多いにもかかわらず、自宅にいるという子が多い、というあたりで、答えるほうも答えにくかったのかなというふうに感じてはいます。</p> <p>設問3のその他、自由筆記欄にあるんですけども、3の4というのを見ると、ほとんどが塾とか習い事とか、サッカーをやっている子なんでしょうけれども、サッカー場、グラウンド、そういった記述が多いので、行く場所って、習い事関係の場所しか行くところがないのかな、というふうなことが、今、読み取れたように思います。</p>

	<p>最後の設問20、21のあたりでも、みんなで集るとか友達と何とかを        するとか、そういったワードが出てくるので、集る場所があれば自宅では        なく子どもが外に出てくるとするのであれば、現状は居場所の喪失といっ        たことが課題としても上がるんでしょうが、でも、この協議会はアンケー        ト結果を受けて啓発を考える場所で、要望する場所ではないので、では、        子どもたちが今どんなふう放課後を捉えているのかなというところがメ        ーンになってくるのかなと思いました。</p> <p>それと、1人で過ごす子が多いということは、その過ごし方であったり、        やはり1人で過ごさざるを得ない子どもたちがどういうふうに家族だつたり、        友達とコミュニケーションをとれているのか、というところも絡めて        いくところなのかなと。</p>
高橋委員長	櫻井委員、お願いします。
櫻井委員	<p>夕食を食べていない子どもがいるというのはとても問題ですし、やはり        夕食時に家族との団らんとかコミュニケーションをとる場所ですので、食        べないというのはちょっと問題だなと思います。会話とか、例えば親が食        事をつくっていないのか、帰っていないのか、そういうのがちょっと心配        になりました。あとは既にご発言があったので、そこだけです。</p>
高橋委員長	大澤委員、お願いします。
大澤委員	<p>夕食もそうですが、朝食を食べないというのが結構いるのが気になっ        ている、私は母親から遅刻してでも朝御飯は食べていきなさいと言われて育        ったので、実際問題、自分の娘も、もう大学生ですが、食べないことが今、        結構多くなったりしているんですけども、そこが気になっています。た        だ、小学4年生とかでも食べないと書いている子がいるというのが、ちょ        っとどうなのか。</p> <p>それと、児童館であれ公民館であれ、あと外であってもそうですが、今、        ボールが使える場所がない。サッカーをやりたいんだけど、どこに行        ったらいいのかわからない。野球をやりたいんだけど、どこに行ったら        いいのかわからない。友達と係りたいんだけど、場所、やる場所がない        というのを、どうしてあげたらいいのか。変なんですけれども、それを投        げかけられればいいのかと思いました。以上です。</p>
高橋委員長	黒須委員、お願いします。
黒須委員	<p>アンケートの項目を大きく分けて、放課後の現状と生活習慣全般とイン        ターネット利用について、3つの流れでアンケートをとっていると思うの        で、そういう感じで分けて、インターネットの問題は1面を使って取り上        げたらどうかなと思ったのと、放課後の現状の中で、どれが一番問題なの        か。例えば、生活習慣のところ、こちらが一番言いたいのは地震のとき        を例に家族で話しをしていないことをピックアップするとか、全部同じよ        うに出すのではなく、ここを一番考えてほしいんだ、子どもと親御さんが</p>

	<p>一緒に考えてほしいんだというところをピックアップして、それで大きく取り上げて、話し合ってくださいね、みたいな訴えかけのリーフレットにできたらいいなと思います。</p>
高橋委員長	<p>佐野委員、お願いします。</p>
佐野委員	<p>放課後の様子、これをメインに取り上げていただいたらどうかと思います。子どもたちが放課後どうやって過ごしているのか、そういうものをメインに取り上げていただいて。</p> <p>やっぱり今、災害がこれだけ多く起きているので、その予防といいますか、災害を予防というんじゃないけど、災害があったときにどういうふうにしたらいいのかというのは、4番の放課後、家に誰がいるか、と7番の一人の時に災害があったらどうするかを家族と話しているか、このあたりは関連しているかと思います。そういうものを大きく取り上げていただいたらどうかな、と思います。</p> <p>それから生活習慣全般というのは、これはなかなか難しい問題も含まれているので、あまり細かく取り上げるというのはどういうものか、と私は思います。</p> <p>それからインターネットですけれども、耳に入ってくるのは悪いことばかりですね。だけど、実際にSNSも活用の仕方によっては非常に私たちのためになるということもやはり教えてあげることが大事なんじゃないか。こういうふうにとやると、自分たちの生活のためによくなる。だから、こういうことに使うよりも、こういうふうに使ったほうがいいのか、という呼びかけ方、何かそういうことをちょっと書いていただいたらどうかと私は思います。こういうふうにとやったらよくなりますよという、そういう投げかけとか、子どもたちも、ああ、そうか、そういうふうに使おうと自分たちのためになるんだなという観点からいろいろ考えていただいたらどうかなと思います。</p>
高橋委員長	<p>今、皆さんの話を聞いていますと、啓発すべき方向性の部分で1つ出ていたのは、小金井の地域として、子どもの居場所の創造というか、そういう部分を啓発していったらいいんじゃないか、ということは、よろしいですね。</p> <p>あと、アンケート結果をどういうふうに載せていくかというところで、ここがなかなか難しいですね。今話を聞いていると、子どもの居場所、つまり、ソフトとハードでいえばハードというか、場所的なものと、それから子どもの過ごし方というか、ソフトの部分ですが、過ごし方というのは子どもだけのものもあるし、家庭とのかかわりもあるしという、そういうようなところでさまざまなご意見が出ていたのかなという気がしました。</p> <p>実際、この後、事務局のほうである程度、この場で出た意見を聞いて、</p>

	<p>たたき台をつくっていただくということになります。事務局のほうに質問ですが、たたき台というのはどういう形のものになりそうですか。</p>
田中児童青少年係長	<p>今の皆さんのお話を承った範囲でいくと、19番以降の設問のところについては、文書というか、そういった形での記載になると思いますので、事務局がそこを作成するのは難しいのかなと考えております。</p> <p>メッセージという形で訴えたい内容をアンケート結果とどのように組み合わせるのかというところは、引き続き、次の会以降にまたご議論いただくことなのかなと思っておりまして、構成としては、各項目、放課後の現状、生活習慣、インターネットという3つの内容について、項目立てした形で一度アンケートを使ったリーフレットのたたき台のようなものを出させていただければ、と思います。</p> <p>あとはご意見の中で、幾つかクロス集計などで数字を見直したほうがいいというお話もあったかと思っております。例えば設問6から設問9については、そういったものが必要なのかなというふうに考えております。</p> <p>ただ、設問1から設問5につきましては、組み合わせで回答の矛盾が解決するかどうかとなると、ちょっと違うのかなという気がいたします。</p> <p>また、選択肢にない番号、例えば2択の問題で4番を選んでいる子もいますが、わずか19問のマークシートでも、途中で飽きてしまって適当に番号を埋める子はいますので、そこは致し方ないと思っております。</p> <p>また、これはアンケートの作成段階での問題でもあったのかもしれませんが、例えば設問1の①の選択肢は、小学生は放課後子ども教室、中学生は部活動になっています。作成時には、学校を場所として行う放課後の活動という点に共通性をみて選択肢として入れたかと思うのですが、実際の回答を見ると、性質の違いが大きいというところもございまして。当然、学年別の変動に意味がない形になりますので、数字の出し方も省略をさせていただき項目が入ってくるのかなと考えます。</p> <p>今のところは事務局で思いつくところは以上です。</p>
高橋委員長	<p>そうすると、項目については、放課後、生活習慣全般、インターネット、3項目に沿ってということによろしいですね。クロス集計についてはどうですか。</p>
田中児童青少年係長	<p>ご意見のありました設問6から設問9のところについては、何通りか試せると思います。ただ、具体的なご意見のない部分まで始めてしまうとリーフレットのたたき台作成の面からは収集がつかなくなってしまうので、その意味でも難しいかと思っております。</p>

高橋委員長	<p>今、事務局のほうから説明がありましたが、そのような形でたたき台というものを次回までに作成してもらいます。</p> <p>そうすると、皆さんのほうでどうでしょう。設問6から設問9は再度数字を出していただく。それから項目は3項目に沿ってアンケート結果をまとめるということになります。先ほど皆さんの意見を聞いて、重視をしたい設問について話があったと思いますが、一通り皆さんのご意見を聞いて、さらに意見を交換したいのですが、どうでしょう。放課後の様子については矛盾点が結構あるようですが、この中で特に重視をしていきたいものはありますか。このままでよろしいですか。生活習慣全般のところ、設問7から設問12までになるのでしょうか。先ほど出ていた夕食とか朝食なんかの質問もこれに出てきますけど、特に私も今回、このアンケート結果を見ていて、皆さんからも出ていたのですが、夕食、朝食のところについては、どういう結論を出すかは別として、数字を出して問題提起をする必要はあるのかなという気がしました。</p> <p>小金井市で、例えば全国の中でも小・中学生でいうと、朝御飯を食べてくる子どもが100%とか、朝御飯を家族で食べているという、そういうイメージがすごく強いですが、このアンケート結果を見ると、朝御飯を食べないとか、1人で食べるなんていう子どももいるということが見えてきています。そういう点でいうと、子どもの居場所ということでは、家庭の中での子どもの過ごし方、ということに関連しますが、これについて問題提起するというのはすごく意味があると思います。また、保護者の方もこれを見ると、えっという感じで、食いついていただけののではないかなと思います。</p>
佐野委員	<p>親御さんと子どもの感覚のずれがあるのかなという気がしますよね。子どもは食べていないと言うけど、保護者から見ると、食べていないというのはゼロという、子どもの感覚が何か違うのかなと。</p>
高橋委員長	<p>そうですね。その部分がまさに問題提起になるのかなと。親の認識と子どもの認識の違いというところに気づいていただくということも大事なのかなと。</p>
佐野委員	<p>おもしろいなと思いますね、逆に。</p>
高橋委員長	<p>そのほか、生活習慣のことで何かここはというところがありますか。よろしいですか。</p> <p>では、インターネットのところはどうでしょう。インターネットについては「ご家庭の教育力」のリーフレットの中でも載せてはいますよね。ただ、今回、切り口が違うので、質問は似ているものもありますが、今回のアンケートの結果は意味があるんじゃないかと思うんです。</p>

佐野委員	<p>保護者にとっては、何かを期待して持たせていると思うんですね。その数字がここにあらわれているんじゃないかと思います。子どもはそれを親とは違う形で活用しているというか、そんなふうに使えられるんじゃないかな。そこにずれがあるように、これを見ると感じとれると私は思います。</p>
高橋委員長	<p>私も佐野委員と同じで、この設問18のところを見たときに驚いたのは、子どもと保護者のスマホを持つ意味というものが大分過去と比べて変わってきている。というのは、スマホを持つ意味ということで、設問18の①は「いつでも連絡がとれる」。つまり、連絡をとるために持たせているのかなと思っていたら、例えば、子どものほうのアンケートでいうと、それ以外は、例えば「SNSが使える」「ネット検索ができる」、「その他」のところ、①以外は、「連絡がとれる」以外のことの合計をすると、55%近くになるんです。子どもの中での携帯電話・スマホを持つ意味というのが、「連絡をとれる」からかなり変わってきているんです。</p> <p>親のほうも見てみると、子どもに比べて数は少ないんですが、「連絡がとれる」以外の目的、ネット検索、SNSというところ、②から④までの合計が約28%、約3割弱。だから、そういうふうに使わせる意味合いというのでも変わってきているのかなという、これもやっぱり問題提起になるのかなと。</p> <p>結局、子どもの放課後の過ごし方、放課後の中でスマホ・携帯等をいじって使っている時間というのが、子どものかなりの時間を占めますので、そうなってくると、スマホの持たせ方、持つ意味ということについても、投げかけを今回できると、すごくいいなということを思いましたね。</p> <p>インターネットの部分はよろしいですかね。次回、皆さんから所感というか、そういうものが出て、その言葉で訴える形になるのかなとは思いますが。</p> <p>次が自由記述のところですね。自由記述のところについて、どう反映させていきたいと思いますか。先ほど事務局のほうからもありましたけれど、表現が難しいです。</p>
佐野委員	<p>何か場所を求めているような、ざっと見ると。</p>
高橋委員長	<p>そうですね。</p>
佐野委員	<p>これは個人的な意見ですけど、高架下のもっと有効な活用という、ここにもありますよね。線路の高架下、フェンスで囲っているだけのところを、JRさんもいわゆる商業施設だけでなく、何かそういう、未来に向けての夢のある場所もつくってもらえるように市も交渉できないですかね。</p>
高橋委員長	<p>今、佐野委員のほうからはありましたが、ほかに皆さん、自由記述を見て感じたこととかございますか。</p>



古源委員	<p>個人的な感想ですけれども、家に1人であることが多いという結果であれば、自習室がなくても家で勉強すればいいはずで、自習するだけであれば、公共の場じゃなくてもお友達がいなくてもできるんですよね。例えば、自習室が欲しい理由って何なのかな、と思うんです。時間があって家に1人であるんだけど、あえて自習室に行きたい、そこをちょっと考えちゃいます。</p>
大澤委員	<p>自分の子どもを見ていると、家にいると、いろんな誘惑といいますか、目の前にスマホがあって、テレビがあってというのと、家族が生活しているので、その中でもできる子は絶対いると思うんですけれども、自習室に行くことによって誘惑からシャットダウンされた状態で勉強したいって思うんじゃないのかなと思います。家にいると、どうしても遊んでしまうというか、本当に見ていて、遊んでいるんだったら勉強すればいいのにと思うんですけれども、つい、いろんなことをしてしまう感じなんですよ。だから、本人たちもそれがわかっているから、どこかみんなが勉強しているようなところに行きたいと思っているんじゃないかなと思います。</p>
高橋委員長	<p>櫻井委員、どうぞ。</p>
櫻井委員	<p>放課後に家族がいらっしゃるならいいけれど、皆さん、お仕事をなさっていて、子どもは家で孤独になって、その時間、勉強すればいいと思うんですが、1人では勉強しにくいんじゃないかな。だから、みんながいるところの自習室のほうが安心だから行く。今、言われたように、家族がいて誘惑が多いとか、いろいろ場合もあるとは思いますが、逆に1人だから行くということも考えられるかな、と思うんです。</p>
高橋委員長	<p>木下委員はどうですか。学校側で教員の立場で子どもたちの様子を見て。</p>
木下委員	<p>両方の意見があると思います。家族がいれば、何かしらその関係もあるだろうし、お母さんがうるさいよ、外のほうがいいなという場合もあるでしょうし、今、櫻井委員が言われた、孤独になって、外でみんなやっているところの中でやるほうが、能率がいいというのもあるでしょうから、そこは個々の子どもたちによって多少は違うと思うんですけれども、公共の場の学習室を求めている子どもたちは増えてきているのかなという気はしますね。</p> <p>今、一中では土日のテスト前は図書館をあけているんです、自習室として。ほとんど生徒は使っていませんし、もしかしたら場所が学校だからダメなのかもしれないんですけれど、そういうふうにして居場所をつくるようにしながら、自習できる環境を提供しています。そういうようなところが欲しい子も増えているのかなと思います。</p>

高橋委員長	<p>今のご意見でいうと、例えば設問3のところですが、「あなたは放課後、どこで過ごすことが多いですか？」で、③が児童館・公園・公民館・図書館というのが、公共の場の大きなくくりですが、学年別の表で見ると、中1と中2の生徒が児童館・図書館・公民館で過ごすことが多い、という数が増えるんですね。表で見ると。中3になると減る。そういう点でいうと、公民館とかを使う子は中1、中2まで増えて、受験を控えた中3になるとなんで数が減っているのかなと思ったんですが、この表なんかを見ると、そんな傾向が見られるのかなと。</p>
木下委員	<p>完全に塾の影響ですね。</p>
高橋委員長	<p>ああ、塾か。自宅に帰って、その他で塾ですね。ありがとうございます。</p>
古源委員	<p>1つよろしいですか。今、木下委員からお話があった、土日の学校を開放して自習の場を設けているけれども、そこは子どもたちがなかなか利用しないのかなというお話があったので、子どもが求めている環境はわかるんですね。一方で、一中と同じように開放する、要するに放課後の学校のどこかを子どもに開放するという事で、少しでも居場所が増えたりするのはどうかな、と。何となくこの調査を見て思ったのは、子どもたちが求めるものは多岐にわたっていて、それに対して居場所の提供が少ないのかなという思いがしてくるので、そういったことで、中学校が例えば開放してくださるとか、そういうことも 選択肢にあったらいいのかなと思いました。</p> <p>あともう1つ、先ほど小学生は放課後子ども教室で、中学生は部活ということだったんですけど、この集計の中で圧倒的に多いのは部活なんですよ。放課後子ども教室って制度がありながら、その利用が非常に少ないということも、もっと多くの子どもが利用できるように部活と同じようにしたら、またそういう場所になるのか、そのあたりも少し提案していけたらいいかなと思いました。</p>
高橋委員長	<p>ありがとうございました。</p> <p>時間も迫ってきましたが、事務局に質問なんですが、今のような話である程度、たたき台は作れそうですか。</p>
田中児童青少年係長	<p>はい。今、伺った内容で、前回のリーフレットの「ご家庭の教育力」とに近いような形態のたたき台を作成いたしまして、次回の会議の前に郵送等で皆様にお送りして、そのたたきをベースに議論を進めていただくというような形でよろしいでしょうか。</p>
高橋委員長	<p>はい。では、今、皆様からご指摘のあった項目、ご意見を中心に、リーフレットのたたきを事務局のほうでまとめていただきます。また会議の事前に目を通した上で、次は1月の開催を迎えたいと思っております。3月には全体の本体会議がありますので、そこで報告できるレベルまでまとめられればいいのかと思っています。また、まとめ切れない場合は、追加</p>

	<p>でこの会を開催させていただければと思っておりますので、よろしくお願いいたします。よろしいでしょうか。</p>
黒須委員	<p>すいません、1つだけ質問なんですけど、18番の設問のところにあります「携帯・スマホをお子さんに持たせるメリット」というところで、先ほど使い方の問題がありましたよね。ネット検索ができるということも、そういうことにも使われるといういい面もあるというふうに思うんだけど、NHKの『あさイチ』でちょっと前に、学校の授業の形態が変わって、調べるのが前提で授業が進んでいくというふうに変わっていく、前提として、授業の前に調べるのが当たり前で授業に参加するという形に変わっていく。授業がそういうふうになっていくんだ、という感じで取り上げられていたので、その辺は教育現場、どうなっているのでしょうか。</p>
木下委員	<p>調べる事が前提ですけど、インターネットという言い方はしていなくて、ただ私立とかではそういう授業、そういうやり方を進めているところもある。私立は1人1台タブレットを持たせている高校がたくさんありますので、それで宿題をやりとりしたりしているというところもあるので、それで常に調べて、授業に参加できるという、そういう形が増えてくるということじゃないですかね。ICT関係の活用を子どもたちが今も学校で進めていて、ICT機器が入ってくる時代ですので、そういうふうに進めていくというような意味合いだと思うんですけど、現時点の公立はそこまでは視野は入れていないですね。</p>
高橋委員長	<p>ありがとうございました。皆さん、よろしいですか。 それでは、ありがとうございました。第2回専門委員会はこれで閉会いたします。ありがとうございました。</p>